

# 尾瀬ネットワーク通信

2006年11月20日 VOL9. 4(29) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

## 尾瀬単独国立公園化で申し入れ

### ～尾瀬を守る会が環境省に～

ネットワークが加盟している尾瀬を守る会は10月20日、環境省に対して尾瀬単独国立公園化について、実現に先立って解決すべき問題点の解決を申し入れた。単独化を目指すからには、国立公園にふさわしい環境整備が急務であり、特に以前に投棄されたままのゴミ処理の問題は早急に解決すべき尾瀬の恥部とも言うべきマイナス遺産で、こうした足元の問題処理を優先してほしいと申し入れた。

申し入れ書の内容と主な回答は次の通り。

日時 = 10月20日11時より約70分

環境省側 = 国立公園課 鍛冶哲郎課長、

山本麻衣課長補佐、中山直樹氏

守る会側 = 全国山林ネットワーク 鈴木

隆秀、日吉尚孝、ネットワーク 高橋喬、

椎名宏子

申し入れの内容

- 1) なぜ「日光尾瀬国立公園」(仮称)ではいけないのか。
- 2) 尾瀬を単独国立公園化する理由、目的、メリット。
- 3) 尾瀬を単独公園にするために必要な予算はいかほどか。
- 4) 尾瀬沼キャンプ場の北側にある旧焼却場を始め、見晴地区の旧共同ゴミ処理場、山の鼻の旧公衆トイレ跡などのゴミ処理をどう進めるのか。それぞれの地域での作業計画(または計画案)を具体的に明示されたい。
- 5) 至仏山東面登山道については、同登山道の再開以来、本会加盟団体による再開直後からの継続調査が群馬県による調査を引き出したと考えているが、群馬県の調査報告書が提出されたにもかかわらず、その後、な

んらかの動きがないのは何故か。

- 6) 構想では「尾瀬国立公園」(仮称)に南会津の会津駒ヶ岳、帝釈山、田代山等の編入を想定しているが、登山口に駐車場などを整備すると、貴重なオサバグサの盗掘(場合によっては絶滅)等が憂慮される。この地区の自然環境をどのように保護していかれるのか。

付記

- 1) 尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺を中心に野生シカが年々増殖し、湿原で泥浴びをしたり、ミツガシワやミズバショウ、リュウキンカなどの貴重な高山植物を採食するなど湿原を破壊している。これまでの調査で増加傾向にある実態が捉えられているにもかかわらず、シカ対策の方向性さえ明らかにされていない。どのように対処されるのか。
- 2) 去る6月、東京都の中年男性2人がヨッピー橋付近でクマに襲われ、2人とも重傷を負った。クマに襲われるケースは毎年のように発生しており、近年は山小屋の周辺にも出没している。万一の場合の補償やハイカーへの広報活動、安全対策等について伺いたい。

### 申し入れ書に対する回答(鍛冶課長の見解)の要旨

単独化構想はまだ決まったわけではない。ただし、これが実現した場合、地元の尾瀬に対する愛着が増し、従来よりも尾瀬の保護に力を入れることが期待できると思う。

以前に埋められたゴミ処理に関しては、山の鼻でボランティアによって行われたゴミ処理な

どのような方法で、可能な限り早期に完全撤去を目指したい。

(注) 10月13～17日の5日間、ボランティアによるごみの収集、分別などが行われ、ハイカーに鳩待峠まで搬出に協力してもらったほか、ヘリによる搬出が行われた。

至仏山東面登山道については、この山が東電の所有地のため、環境省としては積極的に動けないことを理解されたい。

単独化が実現した場合、南会津地区の保護には同地区の人たちに協力してもらうことになると思う。山野草の盗掘に対する監視等も含めてお願いしたい。

シカ対策については、すでに基本的な調査を続けているが、クマ対策については来年度予算要求に盛り込んでいる。これが認められれば、対策も一歩前進すると思う。

(高橋 喬)

## 群馬県の2団体が守る会を脱会

尾瀬を守る会に加盟していた群馬県の2団体、奥利根自然センター(内海広重所長)と群馬県自然保護団体連絡協議会(飯塚忠志代表)はこのほど、尾瀬を守る会を脱会した。旧尾瀬の自然を守る会の幹事等に呼びかけ、新たに任意団体を立ち上げるもよう。

内海氏は、今回の尾瀬単独国立公園化についての申し入れ先が、環境省北関東事務所ではなく、環境省自然環境局であることを不服として、申し入れ書作成会議の当日、会議を欠席して2団体だけで日光事務所に申し入れるという暴挙にでた。

新たな国立公園を承認する権限は地方事務所にあるはずがないのは当然で、この2団体の常識が疑われている。

この結果、尾瀬を守る会は東京、福島各2団体、計4団体となったが、11月14日、今後も結束して活動を続けることを確認し合った。

(高橋 喬)

## 第2回入山指導...群馬側

- 1 日時 9月9日(土)午前6時～7時
- 2 場所 戸倉 並木駐車場
- 3 メンバー 横田、坂本、池田、清水
- 4 概況

明け方の雨の影響や端境期もあってか、入山者も少なく駐車場には約50台の車両だけであった。(前日は5～6台)

殆どが、尾瀬ヶ原か至仏山でアヤマ平への登

山者はいなかった。

当ネットワークのリーフレットを配りながら入山ガイド等を行った。

山ノ鼻(尾瀬ロッジ)では、土曜日にもかかわらず宿泊者は数人しかいなかった。

5 その他(咲いていた花)

ミヤマアキノキリンソウ、ミヤマトリカブト、ミズギク、ウメバチソウ、エゾリンドウ、ヒツジグサ、イワショウブ、サワギキョウ...etc

(群馬側担当幹事 清水博之)



9/10・群馬側入山指導・シカ調査参加者

## 2006年度活動終了...福島側

福島側の現地活動は、残雪期の5月よりブナの葉が色づく10月まで全5回にわたり実施致しました。

尾瀬御池を拠点に地元会津バスさんのご協力のもと、多くのNW指導員の参加をいただき、5月26, 27, 28日をはじめ6月1回、7月2回、10月1回と実施、また春、秋には研修会も兼ねて会員、一般から参加者を募り、NW事業のPRにも努めました。

春の研修会18名、秋の研修会16名、会津バス添乗解説15名、延べ5回で50名の参加協力をいただきました(研修会参加も含む)。

9月の入山指導は残念ながら参加者不足と台風の影響でやむなく中止にしました。

昨年からの7月2回の入山指導の計画を立て実施してきましたが、月2回参加の負担増が参加者不足に影響したものと思います。

バス添乗ではブナ平を一望できる見晴でバスを止めていただくなど、会津バス乗務員さんの気配りもあり、添乗解説は年々しやすくなっていると思います。

各回とも参加者が1人3回から4回と繰返しの添乗で延べ27台、1台平均35人の乗客で約945人の入山者に解説を致しました。また、御池付近での指導を合わせれば、1000人を

上回るものと思います。

今年度は新指導員の積極的な参加活動が目立ちました。



シャトルバスより見る「ブナ平」原生林

福島側の看板は何と言ってもバス添乗解説です。会津バスとも連携がとれ、今後も期待に応じて継続して行きたいと思えます。参加ご協力いただいた指導員の皆様に深く感謝いたします。

参加指導員：

伊藤アケミ 3回・磯部義孝 4回・大橋文江 2回・坂本敏子 3回・佐藤信良 2回・円谷光行 4回・初谷 博 2回・椎名宏子 1回・深山美子 2回・田中志朗 1回・横田有弘 2回・高橋 喬 1回・永島 勲 1回・前田佳胤 1回・前田悦子 1回

(福島側担当理事 磯部義孝)

## 秋の研修会

### 七入り「旧沼田街道」を歩く

10月9日、秋の研修及び観察会を実施致しました。参加者は8日に桜枝岐村「ひのきや」に集合しました。食事の時間を利用して登山組、下山組と希望コースの確認などの打合せをし、参加者全員で懇親を深めました。

この研修には高橋理事長、永島副理事長を始め理事・指導員9名、会員6名、一般1名の計16名の参加がありました。

研修では七入～沼山の登り班は永島副理事長をリーダーに坂本敏子、前田悦子、伊藤アケミ、金成政行、磯部義孝の健脚6名でした。一行は途中、台風16号で増水した川に阻まれ、川に石を投げ込み足場を固めてどうにか全員無事に渡る。また下山組10人のためさらに石組みの補強等しながら色づき初めたブナ林を楽しみました。途中、ヤマブドウ、アケビなど秋の味覚もほんの少し味わうことができました。

一方、沼山～七入の下山組は高橋理事長をリーダーに円谷光行、前田佳胤、深山美子の各指



七入～沼山峠の中間点・登り班と下り班との合流地点

導員、小林ミヨ、熊田順子、桑畑良香、鳥海由美子、穂満加代子の会員、および一般参加磯部信子の10名でした。深山指導員の自然解説、特に植物等の説明では参加指導員も頷く場面もしばしばあり、大変勉強になりましたと参加者からの声も聞かれました。

尾瀬5滝の一つ「抱き返りの滝」は、色づき初めた紅葉と針葉樹の緑に吸い込まれるように静かに一行を迎えてくれました。初めて見る滝の素晴らしさに、参加者の中からは滝だけでも充分満足だったとの声も聞かれました。

沼山峠までの登り組6名の足の確保には、前田指導員の車を使わせていただきました。また、首都圏参加者を会津高原駅まで、前田さん、金成さんにお送りいただきました。

(福島側担当理事 磯部義孝)

## 平成18年度第2回 尾瀬ヶ原野生シカ調査報告

- 1日 時 9月9日(土)夜半  
月令・16.3 月の出・18:49
- 2参加者 伊東アケミ・坂本敏子・前田悦子  
池田稔夫・鎮目安康・島田富夫・清水博之・高橋 喬・前田佳胤・横田有弘・(以上10名尾瀬NW)  
稲田博一(朝日新聞)  
津田智匡外3名(環境省)
- 4確認頭数 3頭
- 5調査状況
- ・ 使用器具 ビームライト一式・GPS・ナイトスコープ・方位磁石・双眼鏡他
  - ・ コース 山ノ鼻 竜宮 の片道(4.03km)
  - ・ 所要時間 4時間30分(復路を含む)  
9/9 20:00 山ノ鼻(尾瀬ロッジ) 出発  
9/10 0:30 " ( " ) 帰着
  - ・ 天候 晴天 月令・16.3 という明るい月のため、ヘッドライトを使わずに木道を歩け

る状態だった。後半、森林と湿原の境にもや（霧）が発生し調査の妨げになった。

#### ・経過

今回初めて、長さ1.5m程の物干し竿を利用したビームライト用の新兵器が登場し、一頭も見のがすまいと15対の目が林の中まで届く光の先をみつめたが、確認はわずか3頭という結果に終わった。

確認地点は源五郎堀・セン沢の周辺

#### 6 考察 他

今回の3頭という調査結果について、雲がない満月の明るさを、シカは森林から湿原に出て活動するには危険と感じたのだろう。しかし毎週のように繰り返されるビームライトの照射に対してシカのおびえはないだろうか。また何かの理由で日光周辺との季節的な移動が早まったのでは・・・

など、あれこれ考えが浮かんでくる。

とにかく、私達はまた一つ、自然の中で新しい体験をしたのだと思う。

毎回、調査器具の保管及びバッテリーの充電等で協力頂いている山の鼻ビジターセンターのみな様に感謝いたします。

（シカ調査担当理事 坂本敏子）

#### 《参考》

同行した朝日新聞記者によりこのシカ調査が9月12日付朝日新聞群馬版朝刊に写真入で大きく報道されている。

**尾瀬ヶ原で生態調査・シカ確認3匹だけ**という見出しで、記事の冒頭に「尾瀬自然保護ネットワーク（高橋喬理事長）の会員10人らが9日夜、尾瀬ヶ原で野生ニホンジカの生息調査をした。01年から続けられており、調査結果は宇都宮大学の小金沢正昭教授のもとに送られ、尾瀬での食害が問題になっているニホンジカの生態解明のために役立てられる。」と当ネットワークの活動が高く評価されている。

### 平成18年度活動を終えて

#### 円谷光行さんバス添乗解説デビュー

5月27日、美しいブナの芽吹きの中を走るシャトルバスで、昨年指導員になった円谷さんが初めての解説を行いました。穏やかな調子で尾瀬の自然を守る大切さを訴え、また例年になく残雪の多い湿原の状況などを伝えました。話が終わると、満席のハイカー達から惜しみない拍手が送られ、尾瀬ネットにまたひとつ大きな

力が加わったのを実感しました。

（理事 坂本敏子）

#### 活動を終え帰路大清水経由で（田中氏に同行）

6月11日、今にも降り出しそうな空模様、林の中イワナシやエンレイソウが可憐に咲いていた。話をしながら歩くと速い。沼近く水芭蕉真っ盛りだった。行方不明の方が昨日発見（死亡）されたとの情報をビジターセンタから得た。

三平下に向かう木道下にタバコの吸殻やキャンディーなどの紙など多く、火バサミを持たず入山したことを反省する。岩清水近く、親子ずれに会い、カエル、オオサンショウウオの卵や植物の説明をしながら一ノ瀬到着。大清水までブナ平に負けずツツジ林が美しい。トチの木も多い。雨が本降りになったが、森林の美しい緑に触れ、心安らぐ日でした。一つだけ知らない花、帰宅して図鑑を見たらツクバネソウでした。

（指導員 大橋文江）

### OMCカードの株主から寄付金

（株）OMCカードの株主の皆さんから9月14日、ネットワークに284,271円が振り込まれた。期末の株主優待に関し、選択肢のなかに（財）緑の地球防衛基金への寄付を取り入れたもの。同社と緑の地球防衛基金との話し合いの結果、「地球にやさしいカード」助成対象団体に対し、カード利用数の多少にかかわらず、各団体に同額ずつ配分された。

財政窮迫のなか、多額の助成金をいただき厚く御礼申し上げますとともに、来季もご期待に副えるよう会員全員で活動に取り組みたいと思う。

なお、今年度の同カードの助成金は5月12日、80万円を振り込んでいただいている。

1人でも多くの会員が「地球にやさしいカード」を利用しよう！

（高橋 喬）

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町 2-17-5-203(株)SEC 内  
電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178  
[http://www.geocities.jp/oze\\_net/](http://www.geocities.jp/oze_net/)

理事長 高橋 喬  
事務局長 椎名 宏子  
編集担当 島上 健  
HP 担当 東雲 明

